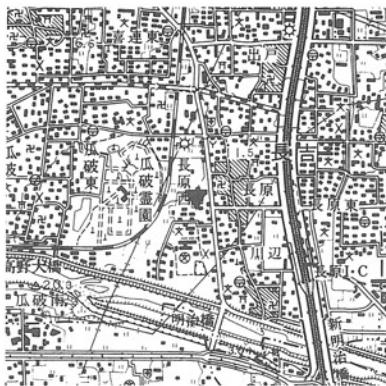


大阪・長原遺跡

ながはら



(大阪東南部)

木簡は、第6e層とした奈良時代の水田作土層から一点出土した。出土した作土層の上面では水田畦畔が検出され、平城宮土器Ⅱにあたる土師器や須恵器のほか、棒状あるいは板状を呈する木製品などが出土している。水成層から出土した遺物はわずかであるので、遠隔地から流されてきたものではなく、「馬池谷」の東側に広がる近隣の集落において使用されたものと考えられる。

1 所在地 大阪市平野区長吉長原西三丁目

2 調査期間 一九九五年(平7)一月～一九九六年一月

3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会

4 調査担当者 宮本康治

5 遺跡の種類 水田跡

6 遺跡の年代 後期旧石器時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

長原遺跡は旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡であり、現在に至るまで各所で調査が行なわれている。調査地の位置する遺跡

の西南部一帯では、古墳時代から平安時代の集落や各

時代の水田などが検出されている。調査区は開析谷である「馬池谷」の一郭にあたり、古墳時代の溝や土坑、奈良時代の水田、鎌倉時代から江戸時代の耕作跡など

が見つかっている。

木簡は、第6e層とした奈良時代の水田作土層から一点出土した。出土した作土層の上面では水田畦畔が検出され、平城宮土器Ⅱにあたる土師器や須恵器のほか、棒状あるいは板状を呈する木製品などが出土している。水成層から出土した遺物はわずかであるので、遠隔地から流されてきたものではなく、「馬池谷」の東側に広がる近隣の集落において使用されたものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 米三石□斗五升

(125)×(25)×5 081

米の数量を記した木簡で、大振りの文字で書かれている。左側面以外は欠損しているが、墨痕は比較的明瞭である。出土層位や共伴遺物からみて、奈良時代の木簡とみられる。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XV (一〇〇年)

(宮本康治・鳥居信子)

